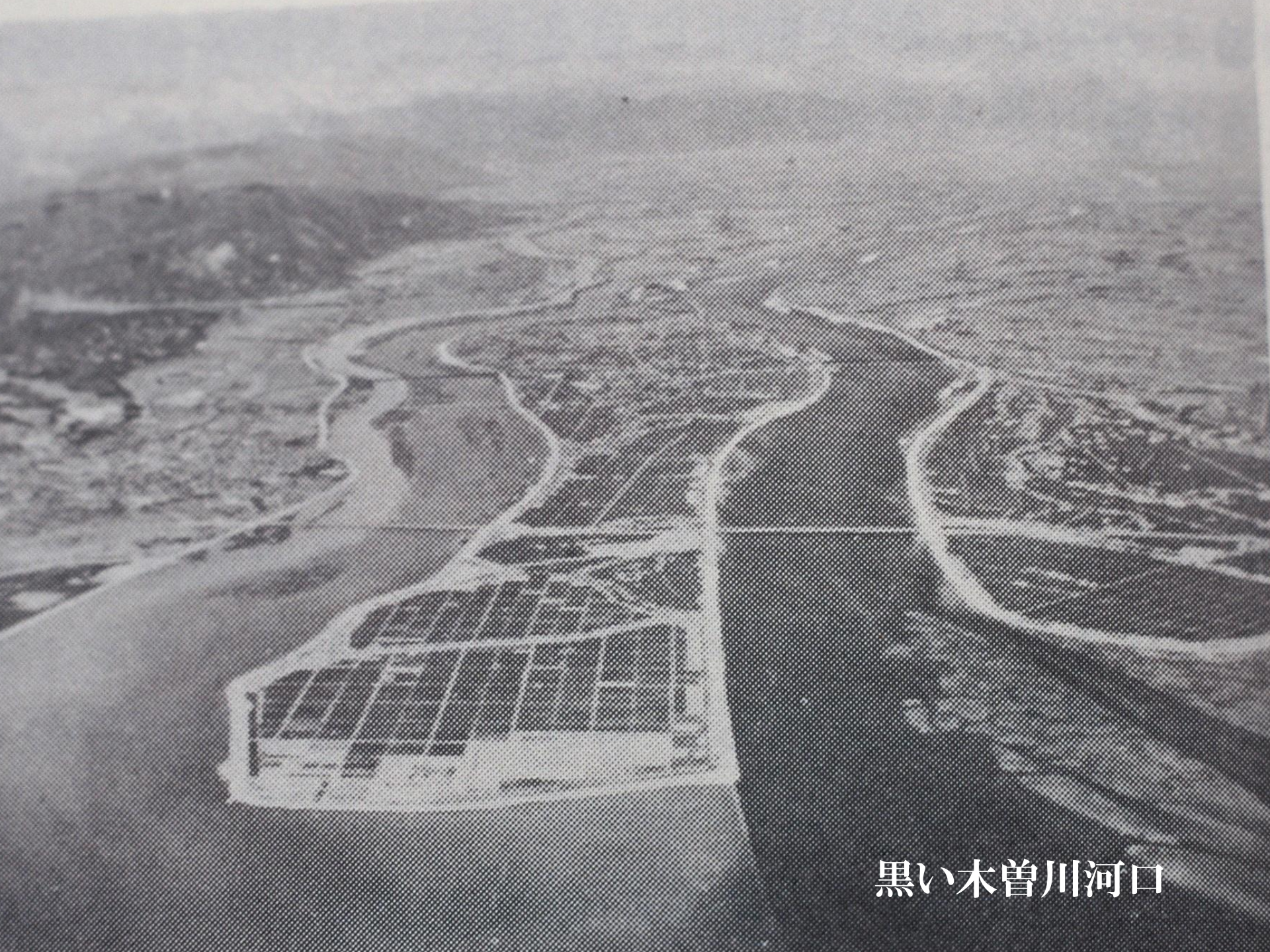


伊勢湾の環境は今

海の博物館

石原義剛



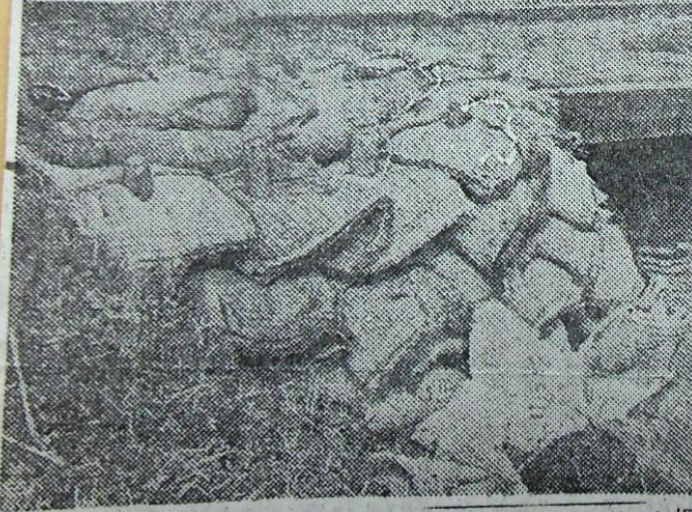
黒い木曾川河口

漁夫四百人が工場へ亂入

“廃液でノリ半作”

香良洲な 三漁組 会社側態度を怒る

二十日午前十時半ごろ津市藤方、中央鑛業株式会社(佐佐木俊一社長)に、同会社の廃液で糺ノリに大きな被害を受けている二百名前後の漁民が「廃液を流すのを止めよ」と要求し、会社の排水口を土のうでふさぎ会社にたれこんだ。このため、津市では大騒動で約五十人の警官が出動、制止にあたつたので、午後零時半ごろ、一たん収まつたが、ひき続き交渉が行われている。



たれ込んだ漁民と警官のせり合いの土のうでせ止められた排水口

このノリ騒動は津市藤方、相川河口にノリ糺工場をもつている同市米津漁協(木下俊雄組合長)同豊出漁協(岸江基助組合長)一帯に

香良洲漁協(今井金左衛門)の三漁協組の六年越しの騒動したもの。同会社の工場には羊毛を洗浄し、羊毛のは羊毛を洗浄し、羊毛ついでに植物性の雑物を(炭)作業から生れる液でカリ性のグリンス分(油脂)れており、ノリなど魚貝の素の量が少くなるため、風のないとき約十八万坪の糺場は、ここ二、三年で糺に減つたといわれている。この日、排水排水口付近にたれこんだ、四百人の漁協組員が、同社の代表に会い、せりかけつけを津市藤方とせり合いをせし約二十分あけ、今井金左衛門(同代表約十数名が佐佐木)交渉したが、組合員ら取り囲み、一時は立入り集まり入りこんで気勢を激しくした。漁協側の不誠意をなじる騒動合いが続き、津市双方の力をまきこ

廃液でノリ半作

『臭い魚』の原因は工場廃液

油や硫化物が作用 異様な臭気が...

県汚水調査の中間発表

県総合開発本部は十日、伊勢湾汚水調査の中間報告を発表した。汚水問題が世間の注目を浴びるよになつてから初めて出された中間報告で、伊勢湾汚水調査対策推進協議会専門調査委員団により、おもに四日市港周辺の「臭い魚」について原因が明らかになった。これによると伊勢湾の「臭い魚」の原因は「工場廃液のうち油が主で、それと硫化物、水酸化物が作用して異様な臭気をおびていることがわかった。

△調査委員長の川本野村(県立大工学部教授)は十一日東京し、通産、経企、水産の各官庁に調査結果を報告する。伊勢湾の汚水問題については、これまでもたびたび田中の議題にのぼり、上京の田中知事も明を求められていたが、この日の報告書完成に伴い近く知事や上京、問題について農林大臣と話し合うことになっている。調査の経緯、内容、結果は次のとおり。

▽工場廃液は四日市港周辺の右原、藤原など十五ヶ所のもの化学分析を行ない、海水汚染は工場、直営排水、三浦川、大井川からの海水、港内各地点の海水を採集し分析した。とくに海底の泥層重点をおいた。調査に

ついては工場廃液調査のため、港内に十の測点を設け、水温、透明度、塩素量、酸素量、水素イオン濃度、底生動物、プランクトンなどを調査、またワナキを用いて腐水の魚類にたいする影響を調べた。このほか管内調査結果試験にはクロライを用いて好結果を得たが、ニシイヌによる実験では着臭しなかった。

△調査については、異臭物質が何であるかを究明するため、四日市港と津海岸とれたボラをこまかくてい化学処理し、ガスクロマトグラムで両者を比較し、究明にとめた。一方、港内海水中の臭気物質を求めると、目的の化学操作も行った。海況調査は準備のついで本年度に

県の決定認

四日市市 平田市長 午起

四日市市 四日市市午起埋め立て地の利用問題をめぐって、田中知事と平田四日市市長が真つ向うから対立し注目されているが、平田市長は十日の記者会見で「田中知事がこれまでの約束を破つて、一當利会社に全部を利用せよといふ決定をしたことは、市としては納得できない。再考をうながすとともに、この決定を撤回しなければ、今後の県への協力も考え直さなければならぬ」と語つた。同市長はこのほか、八幡製鉄所改

実施することにした。

▽これら各種調査の結果、工場廃液からは多量の油と硫化物を多く含む物質、水溶性硫化ソーダ、チタン、第一鉄類などが出され、これが港内海水中で相互反応を起して硫化物、水酸化物

確認、硫化物、水酸化物の発生原因となり、さらに有機、無機、油質の物が油性物質を吸着濃縮、沈殿して海底に油膜、油分の沈着と分解による硫化物、水酸化物の発生がみられた。したがって、港内での魚類の臭気は油分、フェノール類、硫化物(ガス)と水、硫化物)によると考えられる。

業者協定

やっぱり臭い伊勢湾の魚

とてゝ食用には魚

伊勢湾漁工場側へ補償
連が調査

【四日市】「油臭い魚」として大阪、東京など各地市場から魚類物の締め出しを食っている伊勢湾漁連は四日市市周辺の工場が実際にどれだけ工場排水によって汚染され、油臭くて食べないものか調べるため二十五日、県水産課、県水試伊勢湾台、県衛生研、四日市保健所の協力を得て初の海面調査をした。アグリ網漁船二隻を使い四日市市周辺の三漁場、獲れた魚を試みてみたが、やっぱり臭くて食用にはならぬことが改めて確認された。この結果、沿岸漁民三千人の生活ともつながり、工事へ補償要求が出されるもよう。

この調査は最近、四日市市周辺で 橋から出る廃液で油臭くなり、販 者から「伊勢湾でとれる魚は臭くとれる魚が臨海地帯にある石油工 神、京浜地方の大口消費地では業 て食べない」と苦情が続出、せつ



かく出荷したのもも全 てくるありさま。このの 中市漁業協組をは けている沿岸漁民は 死活問題だと、関係 に補償を請求するこ の調査を始めたもの この朝八時半、輪 組から四日市市京 での関係十組合の 県水産課山本課 伊勢湾分署の水 県衛生研石川検査 後藤衛生課長 津島組のチ くと六隻の調査 日市午起沖、 四日市沖でと

やっぱり臭い
伊勢湾の魚



ユージン・スミス「水俣病」写真



名古屋 臨海工業地域



流失油に中和剤を散布



博物館に持ち込まれた
腫瘍のできた魚



背骨の曲がったボラ

推進

中・南勢に大工場
新た

中・南勢に製鉄所を誘致

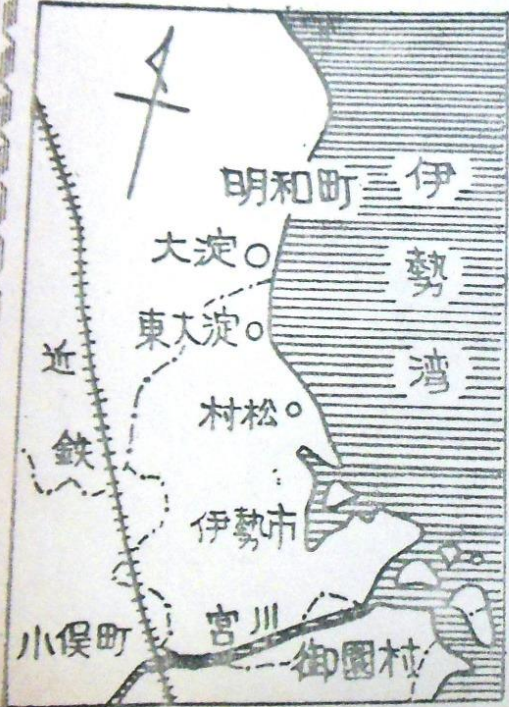
知事 県議会特別委で言明

第一候補地に伊勢

神鋼と話し合

伊勢の製鉄誘致特別委員会(委員長一委員)は、二十一日午前十時から、県議事堂で八カ月ぶりに公営、県報から田中知事、高野副知事、田中副知事、田中副知事らの出席を求め、当面、県内進出が計画されている製鉄所について調査を開いた。席上、田中知事は四日市市街・津浦地区進出を計画している八幡製鉄(本社福岡市)と伊勢地区、外高製鉄(本社大分)とのあいだで、中・南勢進出の話し合いを進めたいことを明らかにした。

この日の委員は「県側の構想を、八幡製鉄の真鍋社長は、二十一日午前、補償の話し合いが、四日市市と地味で調整をつづけている。○：中・南勢沿海地域の業地を、開くだけで終わり、八幡製鉄、伊勢、我下、資本一千九百億円、補償額は四億五千万円、田中知事ははかるため、二十日、田中知事は出たままの漁業補償金の県負担(補償資本二百億円、補償資本一千補償額は四億五千万円)をめぐって、問題については、二月下旬以降、七日(四日市)である。三年で土地返六億円にのぼっている。四日市市予定の委員室に持ち込まれた。県成を終わ、四日市に高野一基を、しては、市折半の形で補償を計画、伊勢が、県ではまだ調整を決定したわけではない。問題は、税収、○：四日市市街・津浦地区進出を、年二百四十万円の鉄鋼を生産する、定したわけではない。問題は、税収、計画、すでに調査をはじめ、百九十三万平方メートルの土地を、によつて算定するため、いま精査



○：三車郡川越村地帯六百八十平方メートルの土地の立地建設が、三井不動産の進められ、五億五千万円の漁業補償が行なわれるがこのほらは八幡製鉄の場合と違つて県の負担問題は起きない。三井不動産が進出するに地を強さ

「中・南勢に製鉄所」



川に流れる洗剤のアワ



赤潮



青潮



死んだバカガイ

死んで打ちあがった魚





スナメリの死がい



カメの死がい



干潟



アマモ場



アマモ場の中



魚付き林



魚付き林